



大阪狭山市

令和3年度

全国学力・学習状況調査における
結果と分析の概要について

大阪狭山市教育委員会

はじめに

大阪狭山市教育委員会は、市の教育施策を推進するとともに、学校における指導方法の工夫改善を図るため、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果と分析を公開します。

本調査は、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度は中止となったため、今年度は2年ぶりの実施となりました。今回の調査に取り組んだ児童生徒は、緊急事態宣言に伴う臨時休校や日常的なマスクの着用、「新しい生活様式」への対応等、これまでにない状況下での教育活動を経験してまいりました。今回の調査結果をもとに、コロナ禍における児童生徒の学びの成果や課題を明らかにするとともに、「第2期大阪狭山市教育振興基本計画」の基本理念「学びあい、つながりあい、未来に輝く人づくり」の実現に向け、教育活動の一層の充実に努めてまいりたいと考えております。

保護者・市民の皆さまには、今後も本市教育活動へのご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

令和3年度 全国学力・学習状況調査について

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等の協力を得て実施するものです。

1. 調査の概要

調査実施日 令和3年5月27日（木）

（1）調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）調査対象

○小学校第6学年 ○中学校第3学年（原則として全児童生徒）

(3) 調査の内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学）

国語、算数・数学はそれぞれ次の①と②を一体的に出題。

①	②
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能 など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 「朝食を毎日食べていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」 など	指導方法に関する取組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか」「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組みを行っていますか」 など

(4) 令和3年5月27日に調査をした学校・児童生徒数

	対象学校数	参加学校数	参加児童・生徒数
大阪狭山市立小学校	7校	7校(100%)	566人
大阪狭山市立中学校	3校	3校(100%)	492人

2. 調査結果の取扱いについて

子どもたちの学力を高めるために、ご理解をお願いします。

- 本調査は、競争を目的とするものではなく、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することを通して、これまでの教育活動の結果と課題を検証し、その改善を図ることをめざします。
- 本調査により測定できるのは、学力の一部であり、教育活動の一側面を示すものです。
- 本調査には、生活習慣や学校環境についての調査も含まれており、地域・家庭との一層の連携を深めることをめざします。

3. 分析の方法

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)の分析について

- 結果や課題の根拠を分かりやすくするために数値やグラフを用いて示しています。
- 国語、算数・数学について、問題に見られる成果と課題を正答率や無解答率とともに示しています。
- 今後の指導方法の工夫などについて、質問紙調査との関係で示しています。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査について

本調査結果から、本市の児童生徒の状況のうち、成果と課題が顕著と思われる内容を紹介しております。

また、質問紙調査の回答状況と、国語、算数・数学の平均正答率の「クロス集計」の結果から、関連が深いと思われる項目についても取り扱っております。

生活習慣や学習環境は、学力と密接な関係があるため、学力の向上を図るためには学校と家庭・地域が連携して状況の改善に取り組むことが必要と考えています。

(3) 各学校の分析について

学校ごとに、成果や課題を分析し、教育活動の改善に活かしています。

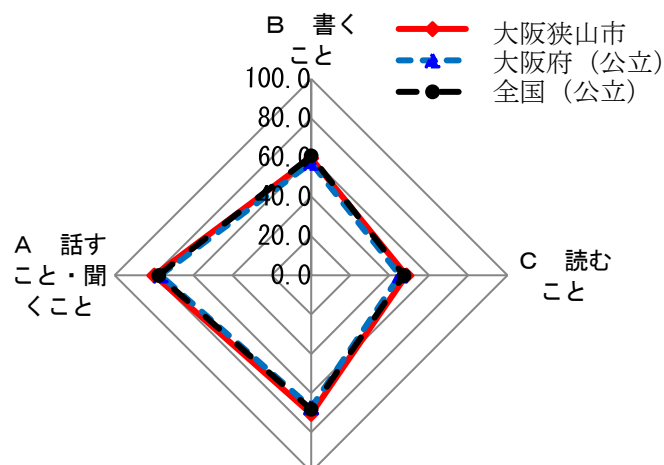
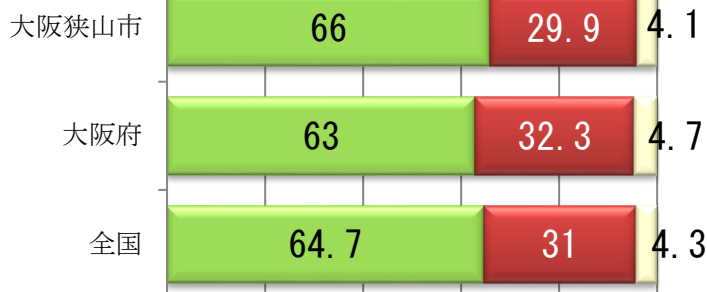
- これまでの学校における取組みをふり返し、今後の指導改善に活かすよう学校全体で取り組んでいます。
- 成果と課題、今後の取組み方針などについて、各学校と教育委員会が話し合い、共通理解を深めています。

1. 小学校国語

国語

■ 正答率 ■ 誤答率 ■ 無解答率

0% 20% 40% 60% 80% 100%



(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

平均正答率が全国平均値を上回っており、特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で成果が見られました。一方で、「書くこと」の領域や記述式の問題は全国平均値を下回っており、課題が見られました。今後は、「目的や意図に応じて書くこと」、「根拠を明らかにして書くこと」など、さまざまな条件の下で「書く」学習活動の効果的な取組みを工夫してまいります。

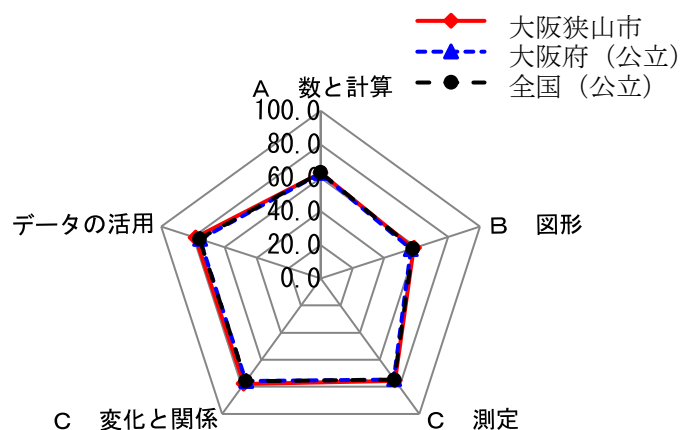
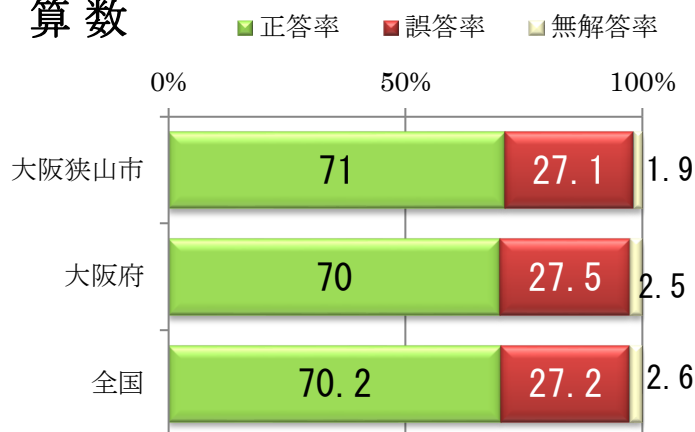
○問題にみえる成果と課題

(数字(%)は平均正答率(本市(全国)))

結果と課題	学習指導にあたって
読むこと(選択式) ○面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する。 2一(82.5%(77.6%))	※文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができているかを問う設問です。多くの児童が的確に内容の中心を捉えることができ、各校の「読むこと」にかかる取組みの成果が見られました。
読むこと(記述式) △面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く。 2四(28.1%(29.7%))	※「国際宇宙ステーションでの使われ方については書いているが、面ファスナーのよさについて書くことができていない」誤答例が多く見られました。要約の力を高められるよう、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて端的に説明する学習活動に取り組んでまいります。
言葉の特徴や使い方に関する事項(選択式) △丸山さんの【文章の下書き】の中の実線部オで、波線部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する。 3三(2)オ(40.8%(43.6%))	※文の中における修飾と被修飾との関係を捉える設問です。「すぐに」が文の中でどの語句にかかるか、正しく理解できていない誤答例が多く見られました。修飾と被修飾との関係に気を付けて、文の構成を理解することは、自分の思いや考えをより適切に表現する上で重要です。修飾語の働きの良さについて児童が気付くことができるよう、授業の中で適宜修飾語の働きについて取り扱ってまいります。

2. 小学校算数

算 数



平均正答率が全国平均値を上回っており、特に「変化と関係」「データの活用」の分野において成果が見られました。無解答率も全国平均値と比較して良好な結果でしたが、「数と計算」の領域や「短答式」の出題では課題が見られました。今後は、児童の理解をさらに深め、定着を進めるために、既習事項の確認を図るとともに、授業における言語活動の充実に努めてまいります。

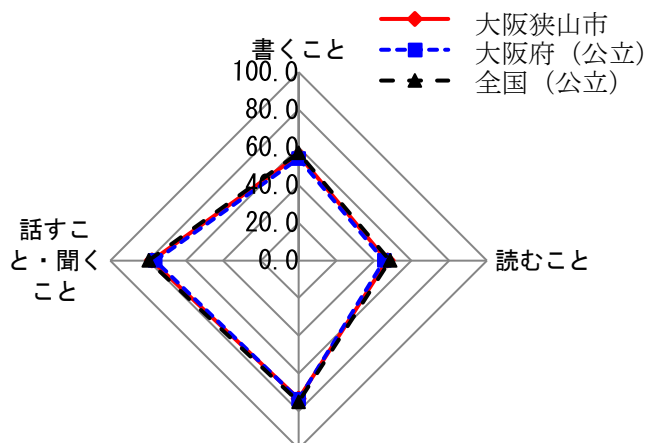
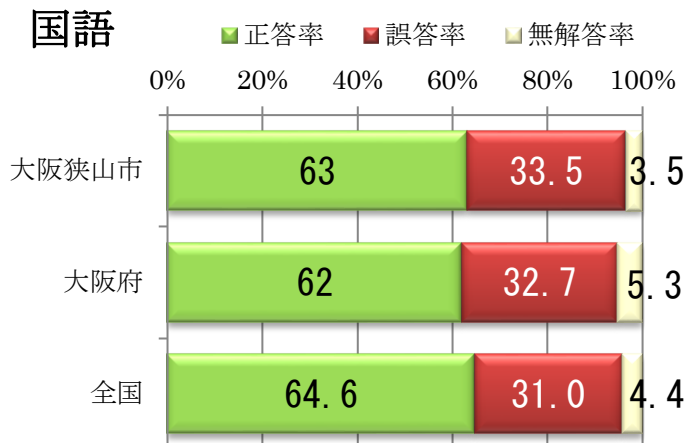
○問題にみえる成果と課題

(数字(%)は平均正答率(本市(全国)))

結果と課題	学習指導にあたって
データの活用(選択式、記述式) ○学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ。 3(2)(94.0%(90.7%)) ○帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く。 3(4)(56.0%(52.0%))	※棒グラフから、項目間の関係や集団の全体的な特徴を的確に捉えたり、統計的な資料を多面的に考察したりできている正答例が多く見られました。今後も、児童が興味・関心を持って取り組めるよう、授業における統計的な問題解決の場面を工夫して設定してまいります。
図形(短答式) △直角三角形の面積を求める式と答えを書く。 2(1)(52.7%(55.1%))	※「 $3 \times 4 \times 5 \div 2$ 」「 $3 \times 4 \times 5$ 」など、設問で示された長さを全て使って立式する誤答例が多く見られました。底辺や高さが分かりにくい図形や、いろいろな向きの図形の面積を求める練習に取り組むことで、児童が底辺や高さ、基本図形の面積を求める公式の意味を深く理解できるよう、取組みを工夫してまいります。
数と計算(短答式) △8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く。 4(2)(52.5%(55.5%))	※商が1より小さくなる「(整数)÷(整数)」の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をする設問です。「 $8 \div 4 = 2$ 」と立式した誤答例が多かったことから、何が被除数で、何が除数かを正しくとらえて立式できるよう、図を用いて児童の実感的な理解を図るなど、指導方法を工夫してまいります。

3. 中学校国語

国語



伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のすべての項目で、平均正答率が全国平均値を下回りましたが、2年前の平成31年度調査と比較して、全国平均値との差が縮まるなど、成果も見られました。今後も基礎的・基本的な知識や技能を活用した問題解決的な学習を進めるとともに、国語科をはじめとする各教科で、生徒の言語活動の充実を図ってまいります。

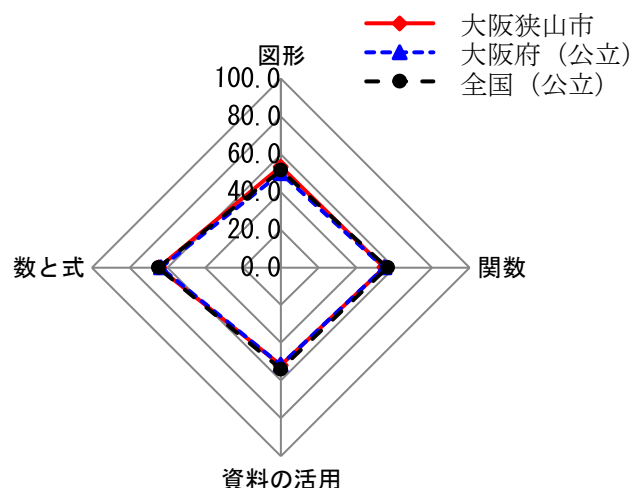
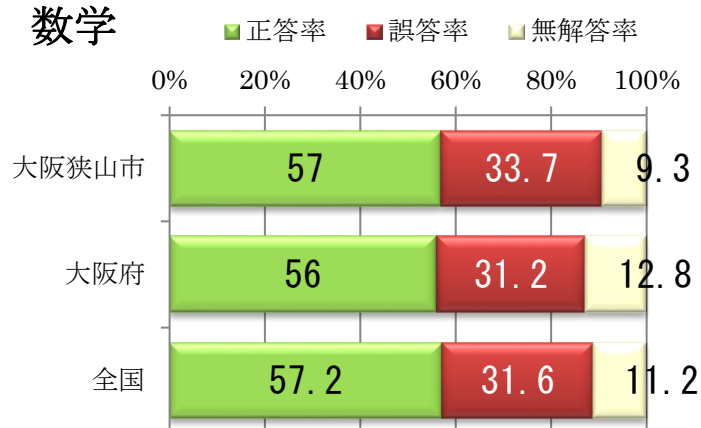
○問題に見える成果と課題

(数字(%)は平均正答率(本市(全国)))

結果と課題	学習指導にあたって
書くこと(記述式) ○事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く。 4四 (74.1%(71.9%))	※伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く設問です。詳しく書く必要がある場合や、簡単に書いた方が効果的な場合など、生徒が場面を判断して書くことができるよう、指導方法を工夫してまいります。
書くこと(選択式) △意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する。(AとBの2つの文の意図についてそれぞれ答える) 2一 (20.8%(24.8%))	※書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるかを問う設問です。誤答例の状況から、設問の選択肢と、【意見文の下書き】の記述との関連を捉えることに課題が見られました。生徒が自分の考えを効果的に伝えたり、印象付けたりできるよう、書いた文章を読み直し、表現の働きを確かめることについて指導してまいります。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(短答式) △「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する。 4三 (36.5%(40.3%))	※相手や場に応じて敬語を適切に使うことができるかを問う設問です。「『行く』を適切な敬語に直すことはできているが、その敬語が謙譲語であることが理解できていない」等の誤答例が見られました。公的な場面で改まった言葉遣いをすることや、会話をしたり手紙を書いたりする際に、相手に応じた語句を選んで会話をしたり、手紙を書いたりすることについて、各教科の授業や学校生活の様々な場面で指導してまいります。

4. 中学校数学

数学



平均正答率は全国平均値とほぼ同じでした。「図形」の領域や、「数量や図形などについての知識・理解」の観点では、全国平均値を上回りました。一方、「関数」「資料の活用」の分野では課題が見られました。数学的な資質・能力を育成するためには、数学的な問題を発見したり、問題解決したりする過程が重要であることから、生徒が目的意識を持って、意欲的に授業に取り組むことができるよう、指導方法を工夫してまいります。

○問題にみえる成果と課題

(数字(%)は平均正答率 (本市 (全国)))

結果と課題	学習指導にあたって
図形(選択式) ○中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ。 3 (73.4%(68.1%))	※扇形の中心角と、弧の長さや面積との関係の理解を問う設問です。多くの生徒が、扇形を円の一部分として捉え、中心角の大きさに伴って変わる数量に着目し、その関係を見いだすことができていました。
資料の活用(短答式) △反復横とびの記録の中央値を求める。 5 (78.5%(84.5%))	※与えられたデータから中央値を求める際、真ん中の2数の平均を出さず、どちらかの数値を答えている誤答例が多く見られました。目的に応じて、データ全体を表す指標としてふさわしい代表値を選択し、それを的確に求める学習活動を工夫してまいります。
関数(記述式) △与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する。 7(2) (23.8%(27.7%))	※事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかを問う設問です。「直線のグラフをかいて利用すること」は記述しているものの、「y座標が120のときのx座標を読むこと」の記述がない誤答例が見られました。日常生活における問題を数学の問題として捉え、見通しを立てながら問題解決できるよう、問題解決の方法について振り返る場面を設定するなど、取組みを工夫してまいります。

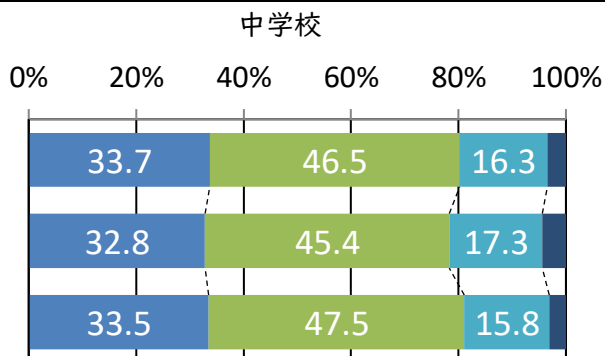
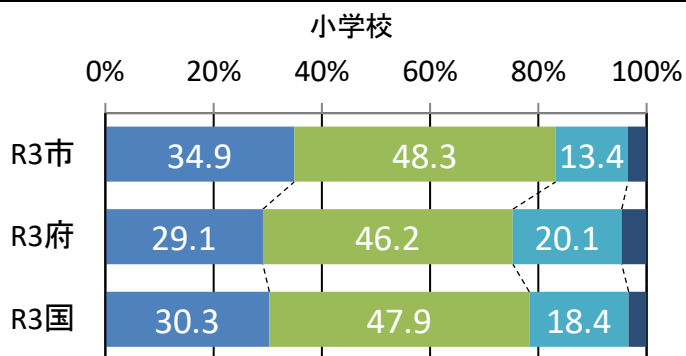
5. 生活・学習状況にかかる質問紙調査

I. 学校の授業について

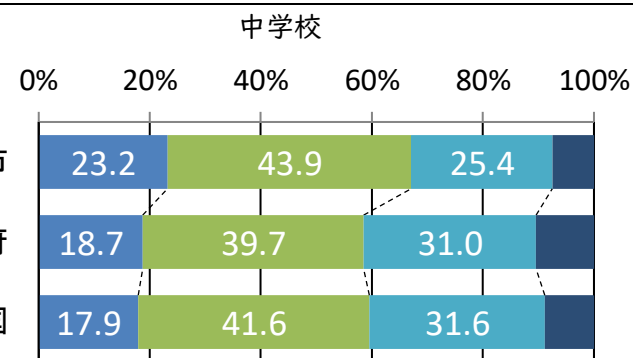
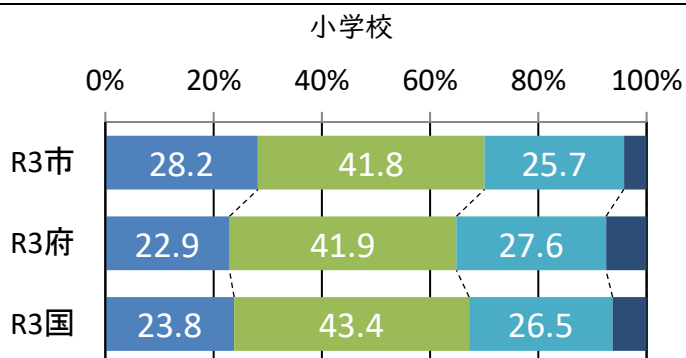
■当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない

■どちらかといえば、当てはまる
■当てはまらない

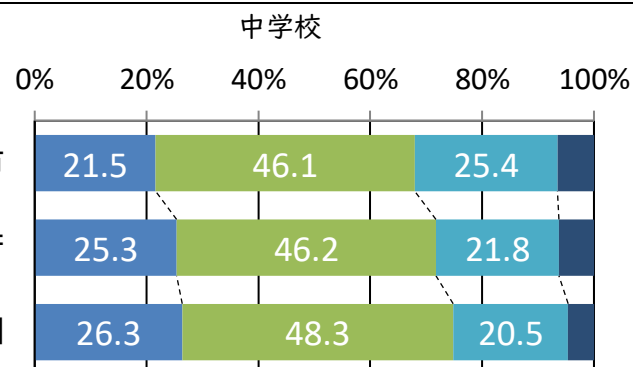
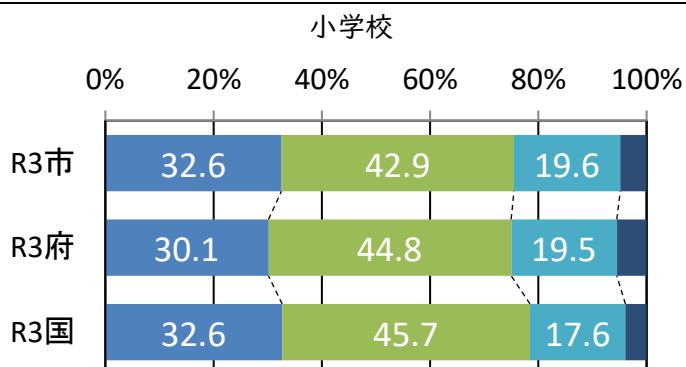
【33】前の学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



【34】前の学年までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか



【38】学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

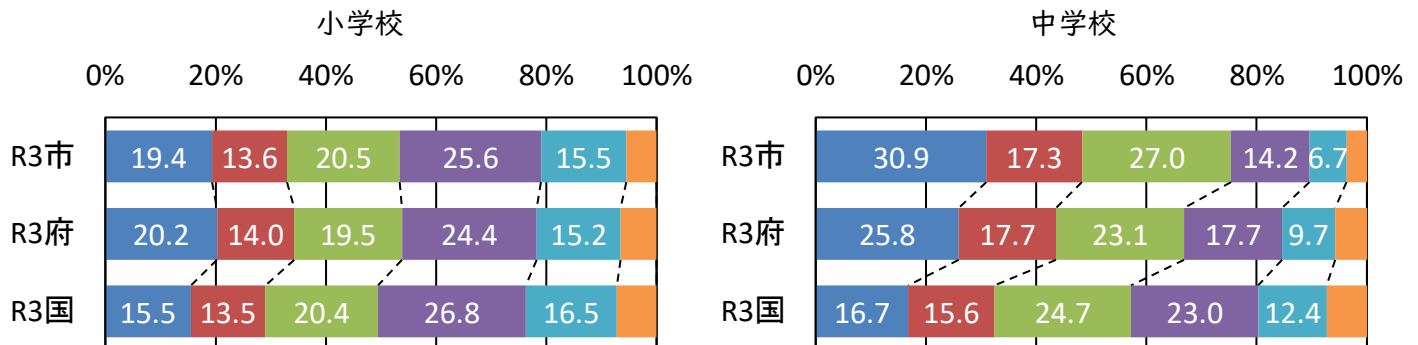


- ・【33】・【34】の質問から、本市の児童生徒が、主体的に学習に取り組んだり、学習したことを活用したりする点で、全国平均値と比較して良好な状況であることがわかりました。
- ・【38】「学習した内容を見直し、次の学習につなげること」については、小・中学校とも、全国平均値と比較して課題が見られました。今後、児童生徒が自分で学習内容を振り返り、理解を深めて次の学習につなげることができるよう、効果的な指導方法を工夫してまいります。

Ⅱ. 家庭での生活や新型コロナウイルス感染症による臨時休校について

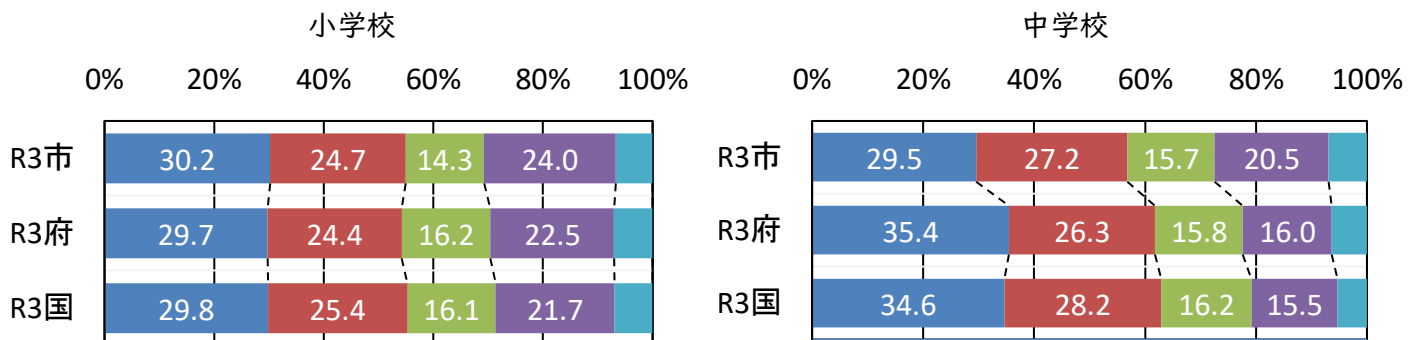
【5】普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

■ 4時間以上 ■ 3～4時間 ■ 2～3時間 ■ 1～2時間 ■ 1時間より少ない ■ 全くしない



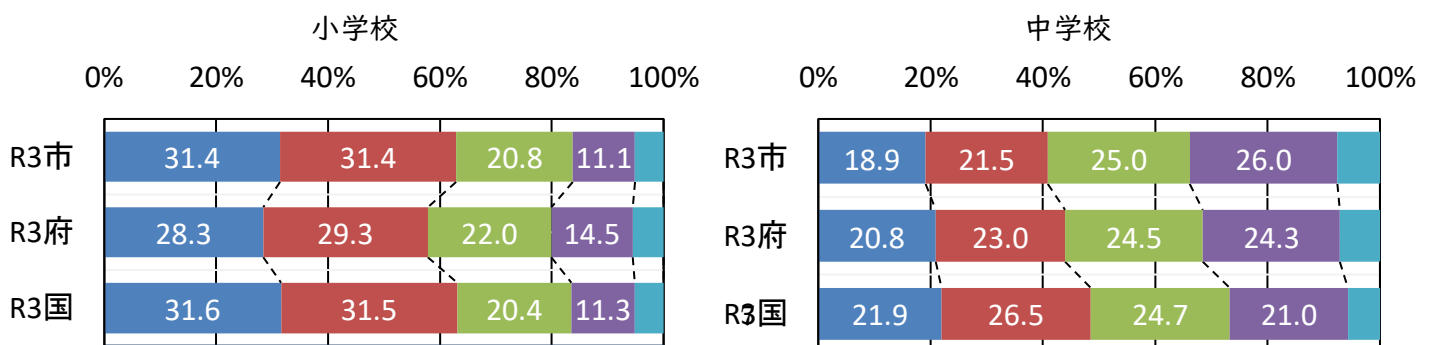
【64】新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中，勉強について不安を感じましたか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ 思い出せない



【66】新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中，規則正しい生活を送っていましたか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ 思い出せない



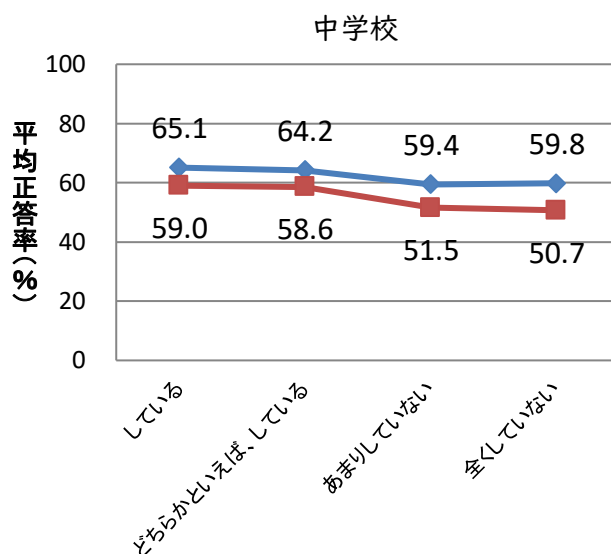
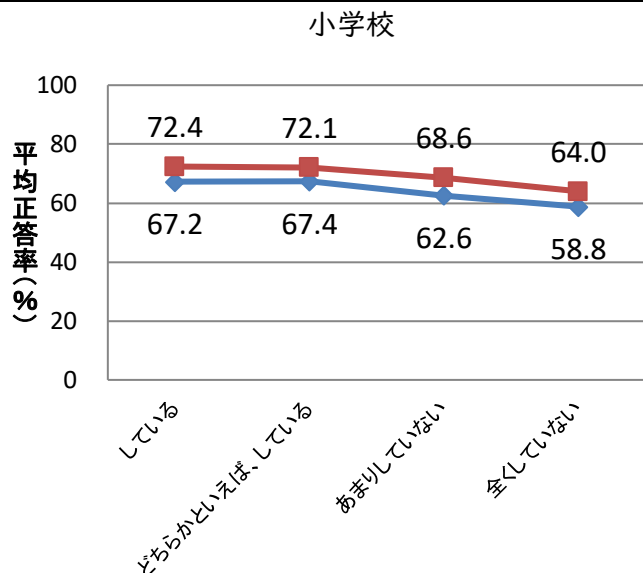
- ・【5】「1日当たり、どれくらいの時間テレビゲームをしますか」という質問では、本市の児童生徒は、全国平均値と比較して、1日当たりのテレビゲームの時間が長いことがわかりました。
- ・今年度の質問紙調査では、新型コロナウイルス感染症対応にかかる臨時休校期間中の勉強や生活についての質問が取り扱われました。【66】「休校期間中、規則正しい生活を送っていましたか」という質問では、全国平均値と比較して、中学校で「当てはまらない」と回答した生徒が多く、課題が見られました。
- ・小・中学校とも、規則正しい生活習慣の大切さについて、児童生徒に引き続き指導してまいりますので、ご家庭でもご協力をお願いいたします。

Ⅲ.質問紙調査と教科調査の「クロス集計」の結果について

本市の児童生徒の質問紙調査の回答状況と、国語、算数・数学の平均正答率のクロス集計の結果から、関連が深いと思われる項目を示しました。

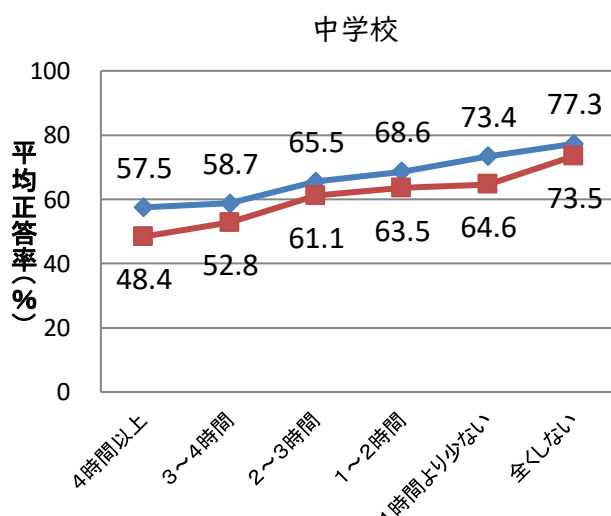
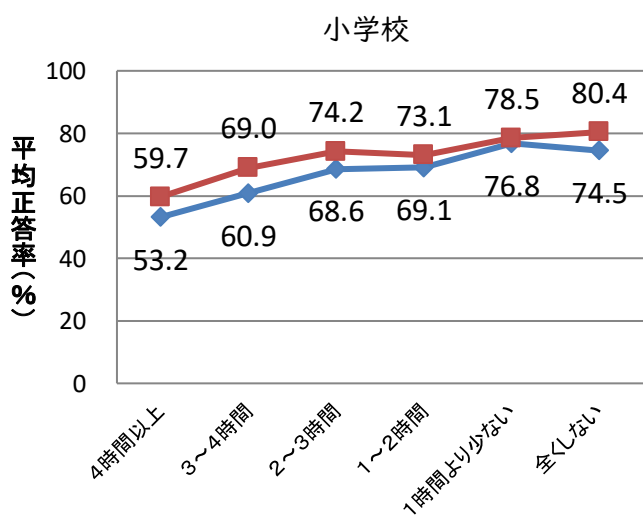


【2】毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



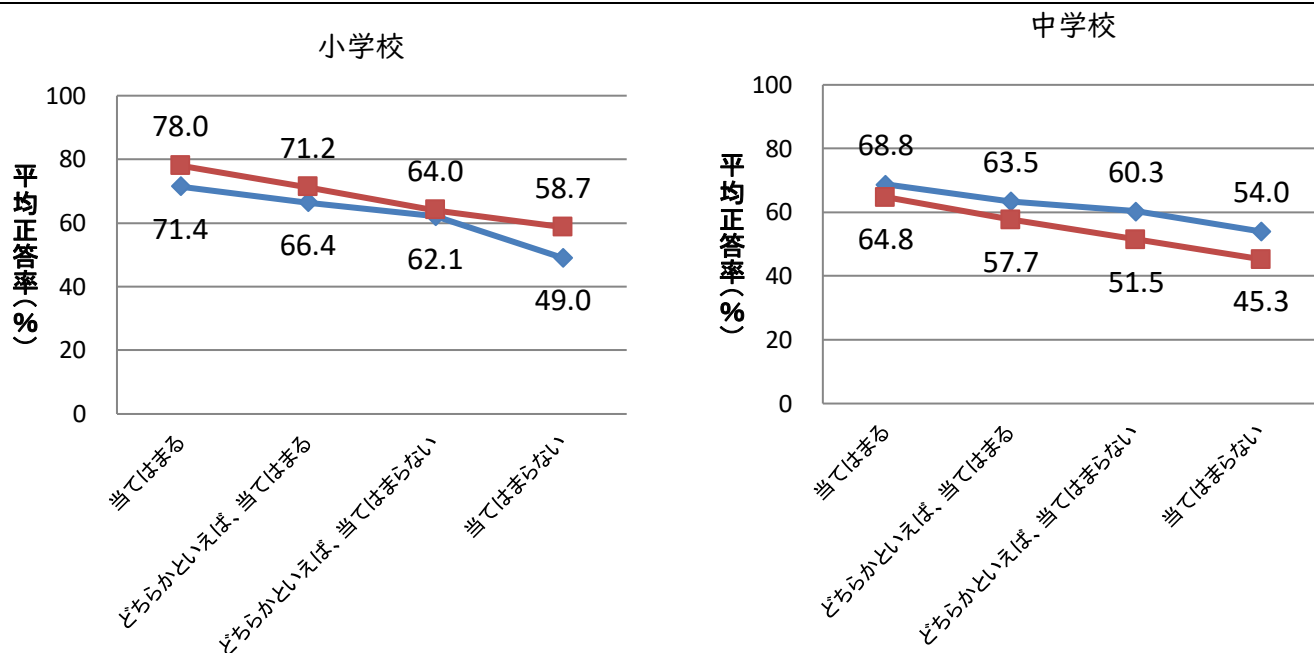
・「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の方が、「あまりしていない」「全くしていない」と回答した児童生徒と比べて、国語・算数・数学の平均正答率が高い傾向が見られました。

【5】普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



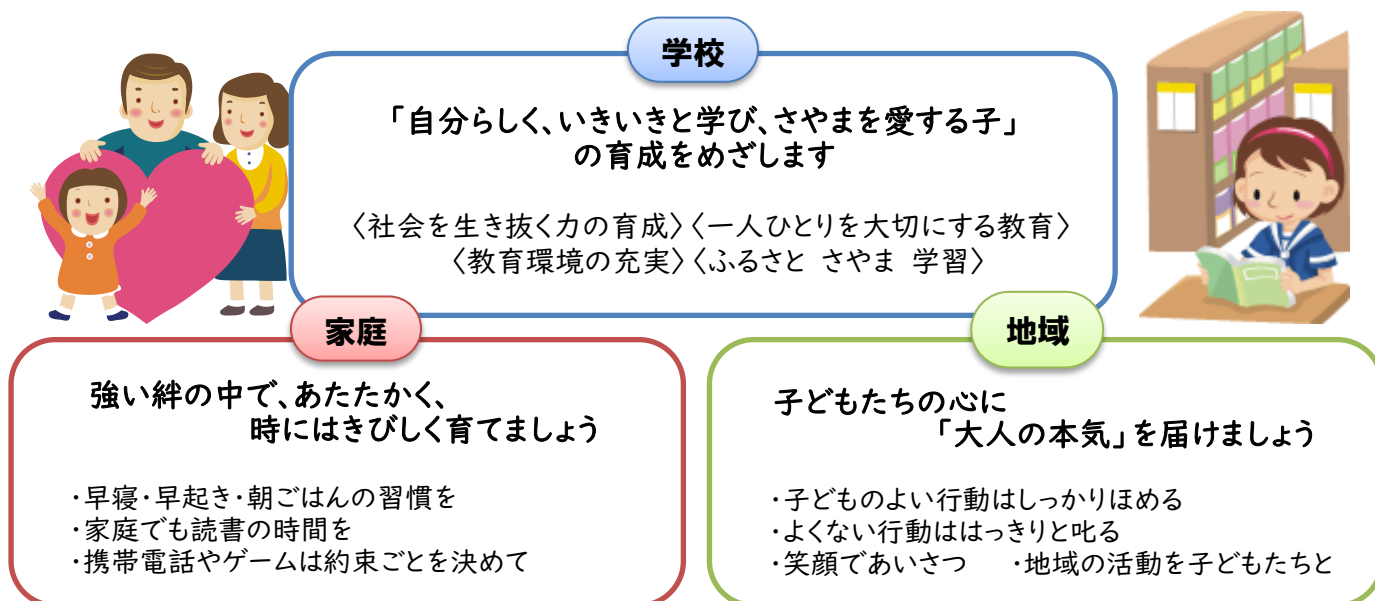
・1日当たりのテレビゲームの時間が少ない児童生徒ほど、国語、算数・数学の平均正答率が高い傾向が見られました。

【38】学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の方が、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒と比べて、国語、算数・数学の平均正答率が高い傾向が見られました。

一人ひとりの子どもたちに、確かな学力を育むための鍵は、学校・家庭・地域の「つながり」です。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



令和3年11月 大阪狭山市教育委員会